

1・2年生の修了式を行いました

3月14日、1・2年生の修了式を行いました。私にとっては、あつという間の1年間でした。修了式では、**1年3組 甲斐祐次朗さん**、**2年3組 松岡亮佑さん**が、立派な頼もしい振り返りを発表してくれました。校長の話と合わせて紹介します。

【2年3組 松岡亮佑】

2024年度、みなさんはどのような一年を過ごしましたか。僕は生徒会会長となり、様々な経験をさせていただき大きく成長できたと思っています。今日は皆さんに、僕が生徒会三役として頑張ってきたことを2つお話しします。

1つ目は生徒会目標決めです。突然ですが、令和6年から7年にかけての生徒会目標、みなさんは覚えていますよね？そうです「You and I～優しさを溢れた愛される附中へ～」です。この目標を考案してから決定に至るまで約2ヶ月間を要し、自分にとってビッグプロジェクトの1つでした。作成の進め方はうまくいったものの、うまく言葉に表せなかったり、全員での合意を得るのに苦戦したりと、うまくいかないこともありました。執行部での計4回のランチミーティング、2回の生徒議会を通して、なんとか決定することができました。

ここで一つ皆さんに投げかけたいのですが、私たちが皆さんに発表してから約3ヶ月、この生徒会目標は達成できていると思いますか？僕の肌感覚では、十分に達成できているとは言い難いかもしれません。他者意識を持った行動が何をもたらすか、もう一度考えてみてください。附中生全員でこの学校に優しさを溢れさせ、愛される学校にしていきたいと思います。

2つ目は、3年生のお別れ会の準備に取り組んだことです。このイベントは、特に3年生にとって感慨深いものです。私たち生徒会執行部は、3年生に感謝の気持ちを伝えるため、プログラムを考え、準備を進めました。この過程では、リーダーシップを発揮することが求められ、執行部とともに何度も意見を出し合いながら進めました。

最終的に、みんなで心を込めたお別れ会を作り上げることができ、3年生にとっても素晴らしい思い出となったことが嬉しかったです。

しかし、課題点も多く挙げられました。「皆さんを楽しませたい」その思いが強くなりすぎてしまい、内容がてんこ盛りになりました。内容が多い分、準備の負担が大きくなり、挫けそうになりましたが、共に準備を進めてきた仲間たちに支えられました。ここで仲間の存在がどれほど大きいか、先を見通した計画の大切さを改めて実感できた機会でした。

私たち2年生はもうすぐ、この学校の最上級生になります。僕は今後の生徒会活動をさらに充実させることが最も大きな目標です。この半年は、生徒会長としての経験を通じて、リーダーシップやチームワークの大切さを学ぶことができました。しかし、まだまだ成長できることが多いと感じており、来年度は自分自身の能力をさらに高め、学校全体に貢献できるよう努力していきたいと思います。今後も、次の世代にしっかりと伝統を引き継ぎながら、自分自身も成長を続けていきます。

【1年3組 甲斐祐次朗】

今日は僕のこの一年の心の変化についてお話しします。確実に言える事は一年前の自分とは別人になった感覚がするという事です。ふりかえると、それは2つの経験が大きな鍵となったと思えます。

1つ目は生徒会活動を通してです。僕は生徒会活動は単に学校のために働くものだと思っていました。しかし生徒会(学校のこと)をまとめる仕組みを作るだけでなく、自分の事についても同時に考えるきっかけとなりました。僕は執行部のリーダー研修で、「より良い生徒会活動とは」という議題で「本質観取」という観点からそれに必要な条件を皆んなで話しあいました。本質観取とは、ものごとの本質を自分たちの経験を通して洞察していくことです。

この本質観取的な考え方は、国語の授業で2年生の学年目標に入れたい言葉を学級で話し合う場面でも、学校に足りていない課題を客観的に捉え、附中生が課題達成の

ために必須な条件を捉える上で役に立ったと感じました。

また、この辺から僕の中でも哲学的とは？本質とは？何だろうという考えが芽生え、どうして自分は今ここにいるのか？何のために生きてるのか？などを考えるようになりました。このように、自分の考えや価値観を深く考えるようになったことは、僕の中での大きな成長だったと感じています。

次に、2学期に始まった僕の不思議な感覚です。実は夏休み明けの僕の心は、「心ここに在らず」の状態でした。最初は時差ぼけだろうと思い、少し様子を見ましたが、2週間経っても1か月たっても、自分が自分でない感覚です。この感覚は人に伝えるのが難しいのですが、とにかくこの感覚が嫌で嫌でたまらないのです。普通の生活はできるので病気でないのはわかっていたのですが、これが何なのかずっと考えていました。

もしかして、皆さんの中にもこう言った新しい感覚で悩んでいる人もいるかもしれません。最近、ようやく僕が達した結論は、これってもしかして待ちに待っていた「思春期ピーク」だと言うことです。

このように僕は1年を通して、多くの体験をし、自分の成長を実感することが出来ました。そして、きっと僕だけでなく、みんなも同じような気持ちを抱えながら、この1年を過ごしてきたのではないのでしょうか？たくさんの不安、疑問、心の葛藤があったかもしれませんが、それはきっと今後の自分を作る大切な一歩になると思います。この経験を糧に、これからも友達と支え合いながら、皆で新しい春を迎えて、このややこしい思春期を乗り越えていきましょう！ よろしくお祈りします。

校長の話（冒頭部分略）

昨日、附属幼稚園の卒園式に参加しました。40人の卒園生一人一人が、未来の夢を語っていました。お医者さん、恐竜博士、昆虫博士、ロボットづくりが多かったですね。お医者さんや恐竜博士が多かった理由を園長先生に聞いてみると、ご家族の姿を見聞きしていること、保育で恐竜王国づくりを行ったことが影響しているとのことでした。夢は、自分が見聞き体験した中から生まれてくるのだなと再確認しました。

さて、皆さんの夢はどうでしょうか。もしかすると、すでに夢が志へと昇華している人もいるかもしれません。

3学期の始業式で、夢と志について、そして司馬遼太郎さんの『坂の上の雲』につ

いて話をしました。3年生の修了式でもこの本の話をしたので、今日は、修了式の節目として、皆さんにも改めて話をします。

『坂の上の雲』の第1巻あとがきには、こんな文があります。

「のぼってゆく坂の上の青い天に もし一朵の白い雲がかがやいているとすれば、それのみをみつめて坂をのぼってゆくであろう。」

明治の先人たちは、日本の未来のため、独立を守るため、高い志を胸に、ひたむきに坂を登り続けました。そんな明治という時代の精神性を表現しています。

皆さんも、多くの方が文字通り、附属中学校への坂を日々登っています。その道のりを、学びの成長過程に重ねてみましょう。幼稚園・保育園の頃は遠くぼんやりとしていた小さな白い雲も、少しずつ大きくなり輪郭がはっきりしてきているはずです。まだ完全な形でなくても大丈夫です。中学校生活は、あと1年、もしくは2年あります。今日の修了式は、皆さんが坂の途中で立ち止まり、自分の歩みを振り返り、より澄んだ空に浮かぶ雲を目指すためのチェックポイントです。これから、より澄んだ空に浮かぶ雲を目指して歩み、その雲の形を少しずつ明確にしていくのです。

この坂をさらに登っていくために大切なのが、「人、本、旅」だと3年生に話しました。皆さんは、特に「人」を大切に。人との出会いを大切にしてほしいと思います。

探究活動では、地域や企業の方々と交流し、学びを深めましたね。人との出会いは新たな視野を広げ、自分の価値観や夢をより明確にしてくれます。それこそが、志を高める原動力です。

来年度は、探究的な学びをさらに充実させ、より多くの人と出会う機会が増えます。その学びを実りあるものにするためにも、自らの志をより高いものとするためにも、皆さんには「**気の利いた挨拶**」を実践し、習慣となるまで高めてほしいと願っています。

気の利いた挨拶とは、どんな挨拶か。自分なりに考え、実践してみてください。毎日の積み重ねが、人との出会いと学びをより豊かなものにしてくれます。

皆さん全員、4月に上の学年に進級します。**学年というステージを。自らより高い所にあげるのか、それともステージに乗って、上がるのをただ待つだけなのか。**皆さんは、どちらを選びますか。これから**皆さんの主体性がさらに大切**になっていきます。4月からも、皆さんと先生たちとで、今以上に素晴らしい活気ある学校を作っていきましょう。

皆さんのさらなる成長と活躍を、心から楽しみにしています。